

## 児童労働のない未来をめざし、 子どものしあわせリンクプロジェクトを展開。

発展途上国の多くでは、今なお多くの児童が過酷で危険な労働を強いられている。その撤廃と防止のための活動を行っているNPO法人 ACEでは、5周年事業として「子どものしあわせリンクプロジェクト」を展開し、国内外の各方面に児童労働の現状を訴え、協力を仰いだ。

今なお2億人以上の子どもが過酷な労働を強いられている。

ILO(国際労働機関)統計局によると、世界には約2億1,500万人もの児童(5歳～17歳)が児童労働についている。

私たちに身近なパソコンや携帯電話、あるいはダイヤモンドの採掘にも、児童労働がかかわっているケースがあるとされている。

NPO法人 ACEはこうした児童労働の撤廃と防止に取り組む国際協力NGOである。その事業範囲は幅広いが、対象とする国はインドとガーナで、子どもを危険な労働から守り教育を受けられるようにする現地プロジェクトのほか、国内向けには児童労働の問題を伝える啓発活動、政府や企業への提言活動、ネットワークやソーシャルビジネスを通じた問題解決の活動を行っている。

代表の岩附由香さんが学生時代から友人らと活動を始め、2005年にNPO法人化を果たした。現在、スタッフが7名、インターン大学生が2名という構成だ。岩附さんはエースの活動の特徴を次のように語る。

「ACEには5つの価値観というがあります。そのひとつが、ネットワークを最大限に活かすこと。私たちだけではできないことも、ネットワークによって数十倍のパワーを持つかもしれない。そうやって活動の範囲や能力を広げてきたのです」。その効果で、現在多数で多様な個人や企業がエースの活動を支えている。

ちなみに、同法人の5つの価値観は以下の通りである。

1. 子どもの利益を最優先します

2. 市民の力を信じます
3. ネットワークを最大限に活かします
4. フェアで自立した組織を追求します
5. 成長できる場でありつづけます

これらの価値観を実践することで、ACEはこれまでにインドとガーナの多くの子どもたちの労働を止め、就学させることに成功している。

体験者が来日して語った悲惨な児童労働の実態。

2010年はACEの法人化5周年で、その記念事業として「子どものしあわせリンクプロジェクト」を実施した。各地の協力者としてガーナのナナ・ブレボンさん、インドのラケーシュ・センガルさん、そして児童を代表して、ガーナの中学2年生オティ・ゴッドフレッド君の3人が同年11月に来日した。

ガーナのカカオ農家に生まれたゴッドフレッド君は、7歳で父親を亡くし、9歳から働き始めた。

「カカオの農園での仕事はとても骨が折れます。朝5時



来日したゴッドフレッド君

から農園へいきカカオの実を収穫しました。朝飯を食べられないので、生のカカオの実を食べて空腹をしのぎました。おとなは10時頃に来て、先に帰って行きました」

ゴッドフレッド君はそんな語り出しから、体験談を語った。毒ヘビなど危険もいっぱい環境でもあった。しかしACEのスマイル・ガーナプロジェクトが始まって、親や住民の意識が変わり、彼を含め子どもたちは学校に通えるようになったという。

また、日本のチョコレート工場を見学し、機械化された設備に驚いたゴッドフレッド君。最後はチョコをもらって満足そうだった。

このほか東京、三重、愛知の各地で学校訪問や交流会、東京と大阪でシンポジウム、参議院会館では国会議員を対象とした集会を開催するなど、児童労働の現状を各方面に強く訴える中身の濃い記念事業となった。

ところで、この事業のために詩人の谷川俊太郎さんが詩「その子」を書き下ろしてくれた。イラストレーターの塚本やすしさんがそれに絵を入れ、森山良子さんと矢野顕子さんの歌が入り、映像としてアレンジされた。皆がボランティアで協力してくれた。シンポジウムでは谷川さん自



大阪で行われたシンポジウム



中高生が参加した交流会

担当者より



想像以上の波及効果をあげることができました。

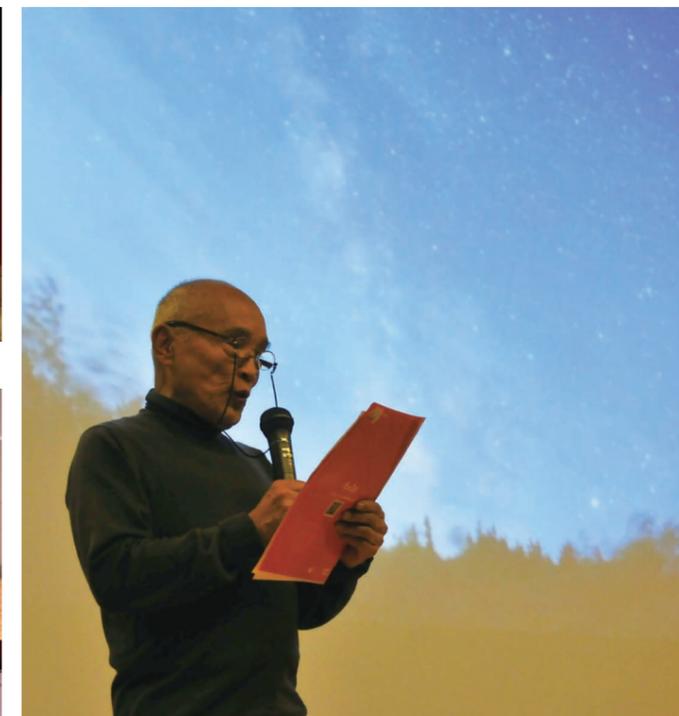
NPO法人  
ACE(エース)代表  
岩附由香さん

実際に顔を合わせて訴えることが重要だと考えての企画でしたが、結果は想像以上の波及効果を伴うものになりました。AJOSCの助成なくしては、これほど大がかりなプログラムは実施できなかったでしょう。多大なご協力に深く感謝申し上げます。

身が詩を朗読してくれた。この映像作品やポスターは、今後もACEの活動メッセージとして活躍することになる。その詩は私たちに訴える。

「おかねのくものすにとらえられた『そのこ』のみらいのためになにができるか。だれかほくにおしえてほしい」

この詩には、先進国の豊かな生活を発展途上国が支えていることに気付いて欲しいというACEの願いも込められている。



東京で行われたシンポジウムでは谷川俊太郎さんが詩を朗読